

令和2年度 学校評価書

東温市立川上小学校

令和3年2月18日

1 学校の教育目標

「健康で明るく」ともに生きる川上っ子の育成

2 経営の基本方針

○協育 みんなが協力して育てる学校 ○共育 互いに教え、教えられ共に育つ学校 ○響育 互いの心が響き合う学校 ○郷育 故郷に生まれ、故郷を想い、故郷に還す学校
 (目指す児童の姿) ㊦ わすあいさつ ㊧ かち合う心 ㊨ んがえ、表現する力 ㊩ んなで踏ん張る底力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方針	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実といじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に努め、子どもがど真ん中で一人一人のよさが発揮される明日も行きたくなる温もりのある学校づくりに努めた。	3.7	3.7	3.3	【考察】 ○ 学期ごとに行う「学校生活についての調査」に加え、毎月「学校生活についての月調査」を行い、アンケート調査を基にした教育相談を実施するとともに、毎月の生徒指導部会で情報を共有するなど、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めている。 ○ よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(Q-U、ハイパーQ-U)の結果の分析について話し合ったり、外部講師を招いて研修を深めたりする時間を設け、学級経営に生かすよう努めている。 【改善方針】 ○ 不登校傾向にある児童については、保護者を交えてのケース会議を開いて相談したり、複数の教職員で話し合ったりしながら、個に応じた支援をしている。今後も、関係機関との連携を図りながら、必要に応じて民生委員等にも協力を依頼する。	○ 先生方が見守りを朝早くからしてくださっているのを見かけ、有難いと思う。 ○ 子どもの問題行動についての連絡があり、学校に伝えると、生徒指導の先生が中心となり、迅速に問題解決をしてくださり、有難いと思う。 ○ 例年とは違う生活であったにもかかわらず、概ねよい評価であったのは成果である。 ○ 不登校の児童について、必要に応じて関係機関の中に地域の民生委員等も加えてもらえるとう家庭支援ができるのではないかと。
	基本的な生活習慣の定着	家庭や地域社会と協力し、基本的な生活習慣の定着に努めた。	3.2	3.4	3.2		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、家庭や地域から得た情報を教職員間で共有した。	3.8	3.4	3.5		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	「みんなの学習クラブ」や「愛媛学びの森学習支援サイト」を活用するとともに、朝学習の時間(「視写」「国語の日」「算数の日」)を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.4	3.5	3.4	【考察】 ○ 9月から1月まで、週2日7時間授業を設定して授業時数を確保した。 ○ 「家庭学習ノート」の励行を学校全体で進め、その内容に合わせた家庭学習を提示したり、各学級において上手にまとめているノートを紹介したりするなどして、学習内容の定着を図った。 【改善方針】 ○ 「家庭学習がんばりカード」を11月と1月に配付して家庭学習時間調査を行い、意欲付けを図った。その調査結果を保護者に周知するとともに、2月に再度調査を実施して家庭学習の定着を図る。 ○ 授業に「学び合いタイム」(小集団学習)を意図的、計画的に位置付けている。今後も場を工夫しながら対話的な学習を取り入れたり、児童主体の考える授業となるよう授業展開を工夫したりして、授業改善に努める。	○ 家庭学習は、子どもはある程度頑張っていると捉えているので、そこは大事にしてほしい。 ○ 「家庭学習がんばりカード」や授業改善、一人一人に応じた指導等、学校でできることを取り組んでもらっていることに感謝している。 ○ 学校で児童同士が考えを話し合い、表現することができている。 ○ 家庭学習の習慣化は課題である。学校と家庭の連携が必要である。 ○ 言語活動の充実も個人差があると思うので、充実させるのは難しいと思うが、個人個人の能力や性格に沿って支援し、充実させてもらったらと思う。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、個の学習に生かすなど、家庭学習が充実するように努めた。	3.3	3.2	3.0		
	言語活動の充実	自分の思いや考えを伝え合う「学び合いタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、表現する力の育成に努めた。	2.9	3.4			
	思考力の育成	学習課題を明確にし、考えさせる授業展開を行うことにより、学習意欲の向上を図り、確かな理解と思考力の育成を図った。	3.1	3.4			
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、仲間とわかち合う心を育てながら、共に励まし合い、みんなで踏ん張る底力を養った。	3.1	3.6	3.4	【考察】 ○ 人権・同和教育に視点を当てた参観日を実施したり、性教育に関する授業を行ったりし、心や体、命について考える時間を設定している。今後も、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を継続し、豊かな心の育成に努める。 ○ 密接・密接を避けるため、異年齢集団等での活動を例年どおり行うことはできなかったが、1学期末には、「クラスマッチウィーク」を設け、目標をもって努力したり、競い合ったりして達成感や充実感を味わえるようにした。各学年の実態やねらいに応じ、スポーツだけでなく読書マラソンにチャレンジしたり、団体戦だけでなく個人結果の加点方式を取り入れた。	○ 道徳教育、特別活動、体験的活動などが充実している様子が見られる。 ○ 子どもは、体験活動を好む傾向が見られる。 ○ 今年度は、全てにおいて大変な中、よくできた。運動会、マラソン大会も工夫していた。 ○ 運動する機会が減っているのではと心配していたが、2回目の評価を見て工夫して行ってくれていることが分かり、安心した。 ○ 今年度は、コロナの関係で不安な思いを抱えている児童がたくさんいると思う。そういった状況に対応できる心がもてるように、心・体を周りの大人が支援してもらえたらと思う。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、ともに生きる川上っ子の育成に努めた。	3.1	3.6	3.5		
	健康づくり	自らの健康に関心をもち、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康で明るい児童を育成した。	3.3	3.5	3.4		
	体力づくり	えひめ子どもスポーツIスタジアムへの挑戦など、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.1	3.6	3.5		
特別支援教育	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心をもち、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	3.0	3.3	3.0	【改善方針】 ○ 今後も、感染症の予防対策を講じながら、様々な行事や体験活動等を工夫して行い、温かい人間関係を築くとともに、豊かな心と健やかな体の育成に努める。	○ 一人一人に応じた支援をしてもらっていると感じている児童が多いのは、よいと思う。 ○ 例年とは違う環境であっても、工夫して支援されているのだからというところが分かった。
	特別支援教育の充実	誰もが安心して参加できる「分かる・できる」授業づくりに取り組んだ。	3.2	3.6	3.2		
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域・関係諸機関と連携して児童をまもり育て、登下校の安全確保に努めた。	3.7	3.8	3.6	【考察】 ○ 教職員による毎日の登下校指導や青色防犯パトロールに加え、今年度は見守りベストを購入し、学校運営協議会委員の方々にご協力いただき、新たな見守りの協力者が増えている。今後も、学校・家庭・地域が連携しながら、登下校時の安全確保を図っていく。 【改善方針】 ○ インターネット等の利用についてルールを設け、個人懇談時に家庭での状況を確認するとともに、校報等でフィルタリングの利用や設定の確認も含めたペアレンタルコントロールについての啓発を行い、適切な利用を呼び掛けた。今後も、ICTサポーターと連携しながら、ICT機器を活用した指導の充実にも努め、情報モラル等を含む情報活用能力の育成に取り組んでいく。	○ 校区内の安全にも気を付けてもらっている。 ○ 登下校の指導がすばらしい。 ○ この項目の数値が高いのが、本当にいつも感心させられる。地域の方がとても協力的で、児童も安心して学校生活を送ることができていると思う。 ○ コロナ禍にもかかわらず、見守り活動が進んでいることはすばらしい。児童も健康に気を付けながらルールを守り、生活できている。 ○ 情報モラルを踏まえ、児童にはICTを活用した表現や発信といった学びも深めてほしい。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.3	3.9	3.5		
	情報機器の適切な利用	ICT機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	3.2	3.5	3.4		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。	3.1	3.5	3.3	【考察】 ○ 学校運営協議会委員に加え、協働活動サポーターとして保護者や地域の方々43名が登録しており、様々な活動において協力が得られている。 ○ 多くの保護者の方や地域の方に本校のホームページを閲覧していただいております。アクセス数が昨年度よりも大幅に増加している。 【改善方針】 ○ 今後も、活動内容を検討しながら、保護者や地域の方々と協力して、みんなで「息の合った教育活動」が推進できるように努めていく。	○ 学校運営協議会の開催により、地域との連携はよくなっている。 ○ 協働活動サポーターによる協力も徐々に増えており、今後も広がり期待している。 ○ ホームページにおいて、タイムリーに学校の様子を知ることができている。 ○ コロナの心配がなくなったら、地域の人たちが気軽に学校に来られるような機会をもっとほしい。
	P T A活動への協力	各種P T A活動に参加したり、協力したりしている。	3.0		3.4		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、地域・家庭・学校が息の合った教育活動を推進した。	3.2		3.5		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やJ R C活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	3.2	3.2	3.1	【考察】 ○ 高学年の児童が中心となって、毎朝のボランティア清掃や挨拶運動に熱心に取り組み、その輪が下学年児童にも広がっている。頑張っている児童を全校で紹介しながら、頑張りを認め合えるような場づくりを工夫した。 ○ 川小金管バンドと箏教室は、年間を通して練習に取り組むことで、児童の音楽に対する感性を豊かにし、表現技能を養い、自己表現力を高めている。 【改善方針】 ○ 毎月設けている赤十字強調週間での取組を工夫するなど、「健康・奉仕・親善」の精神を培う教育活動をより大切にしていく。	○ 登下校時の挨拶はすばらしい。 ○ 声を大きく出すことが難しい中で、よく挨拶できている。マスクを出すことも、気持ちのよい挨拶をするためにはどうしたらよいかを考えることも、学びになると思う。 ○ J R C活動は継続し、奉仕や協働の精神を培いたい。 ○ 金管バンドや箏教室など、児童の感性に有効的な活動ができていると思う。
	挨拶運動	気持ちのよい挨拶を交わし合うなか、校内や地域で進んで挨拶ができる児童を育成した。	2.9	3.4	3.2		
施設・設備の充実	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心・安全な教育の場づくりに努めた。	3.5	3.7	3.6	【考察】 ○ 施設・設備については、安全点検を毎月1回行い、安全点検の日常化にも努め、安全管理の徹底を図っている。今年度は、給食受室床などの補修や、一人一台端末と通信ネットワークの一体的な整備を行っていただいた。 ○ 夏季休業中のP T A親子奉仕活動や運動会準備において、多くの保護者の協力を得て、校内の整備を行った。また、学校運営協議会や婦人会の方々、地域の方に協力していただきながら、学校緑化に努めた。	○ 感染症対策を学校全体で行っていただき、先生方には非常に感謝している。忙しい中でも、花壇にはきれいな花が咲いており、とても気持ちが良い。 ○ いっ学校を訪問しても、気持ちのよい環境づくりができていると思う。 ○ 学校内がいつも整備されていて、とても気持ちよいです。
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.4	3.4	3.4		